

教会短信

牧師 間瀬 善彦

春になると枯れた木々からいっせいに芽が出て新緑の色を添えます。さまざまの色の花々が美しく咲き出します。殺風景な都会の中にも潤いを感じさせてくれる季節です。

人間の一生もさまざまで、順調な時もありますが、逆境の時もあります。毎日生きるのに一生懸命だ、という人もあるでしょう。人はただ人生の終わり、死を目指して生きるしかないのでしょうか。いいえそうではありません。そのような人生でも何か潤いを感じられるときが一瞬でもあれば、その人の人生は豊かなものになるのではないのでしょうか。

聖書がわたしたちに示している潤いは、イエス・キリストを信じる者には魂の救いが与えられるということです。わたしたち誰もが持っている罪を償うために、イエスは身代わりに十字架について死んでくれたのです。そして、3日目に神の力によって復活させられました。

「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なされて、ここにはおられない」(マルコ福音書16章6節)。

一度死んだ人間がよみがえるなんて信じられないと言う人がいます。確かにそう思われる人が多いかもしれませんが、しかし、人間には到底できないことも神にはできるのです。神はイエスを死からよみがえらせたのです。イエスは死んでしまったままではなく、神によってよみがえらされたからこそ今も生きてわたしたちの人生を導くことができるのです。

イースター礼拝

- 4月16日(日)
- 午前10時30分～

教会バザー

- 4月23日(日)
- 午後1時～3時

信頼すること

私は今まで、自分の周囲にいるほとんどの人のことを信頼していました。こちらが愛をもって接してさえいれば、相手も同じように返してくれる、その人との人間関係はとてもよいものになると信じていました。しかし、いろいろな人と接していくうちに、自分がいくら信頼し、愛をもって接していても、裏切られることはあると気づきました。また逆に、私自身も自分のことを信頼してくれている人を裏切るような行為をしてしまうことがある、ということも知ったのです。誰かを信頼するということはすばらしいことである、といったことはよく言われていると思いますが、このような考え方はそのときの私にはとてもつらいものでした。

そのことに気づいてからしばらくの間は、人を信頼するとはどういうことなのかまったくわからず、また私は今まで「愛＝信頼」だと思っていたため、人を愛するということがどういうことなのかわからなくなってしまった時期もありました。

しかし最近になってやっと答えがもらえた気がします。重要なことは、相手が自分を裏切ることは決してない、と信じることではなく、たとえ人に傷つけられても、そのことを許し、その人の幸せを願うことが大切なのです。それが隣人を愛する、ということなのだわかりました。

私たちはとても弱いがゆえに、互いを、そしてときには神様をも裏切ってしまうことがあります。しかし、聖書に

「彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」

(イザヤ書 53 - 5)

とあるように、イエス様が十字架にかかってくださったため、神様は私たちのそんな弱さを許してくださっているのです。神様はどんなときでも私を愛してくださる、という神様への信頼があるから、私も人を許し、愛することができるのだと思います。

H. O



【教会歳時記】

イースター(復活祭)のこと



ある辞書に、イースター(復活祭)とは、Easter.キリストの復活を祝う記念日で、3月21日(春分の日)以後の最初の満月の日の次の日曜日に行われる。イースター・サンデーのこと。と記載されている。

この算定法で、去年は3月27日、今年は4月16日がイースターということになる。

キリスト教の中で、特に記念する祝日(祭日)としては、クリスマス(降誕祭)、イースター(復活祭)ペンテコステ(聖霊降臨祭)などがある。

イースターは、イエスの復活を記念すると共に、春の訪れを告げる祭りであり、彩色した玉子や、うさぎのグッズがつきものであり、西欧では、この日とクリスマスだけ帰省する人も多いといわれる。服を新調して、それを着て町を闊歩する人々があり、イースター・パレードとか、イースター休暇などがあり、学校やオフィスも主日前後休みになったり、北半球の国では、イースターの日から観光施設がオープンする所もあるようだ。

日本では余り知られていないし、毎年日付が変わるので馴染みの薄い日だが、キリスト教最大のイベントは、実は、クリスマスではなく、このイースターである。

キリスト降誕の日も大切だが、罪なき身でありながら人類の身代わりとして十字架の刑を受けられ神の子、イエス・キリストが復活された、それこそキリスト教なるが故の奇蹟を記念する祝いの日である。

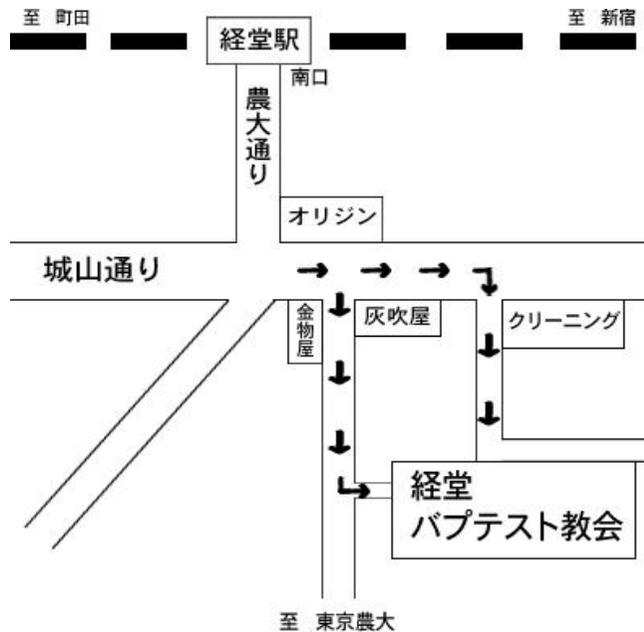
この日に始まる四旬節(レント)の間、信者は、食事を節制し、華やかなことを慎んで、イエスの受難をしのび、結婚式などの祝い事も避けるといわれている。南米やヴェネチアの有名な「カーニバル」とは、この節制の時期であるレントに入る前に、思いきり飲み、食いで騒いでおこうというお祭りだそうだ。教会では、イースター前の一週間、特に2日前の金曜日(聖金曜日、受難日)には、十字架にかけられたイエスの苦しみを悼んで、礼拝や祈祷会が行われる。聖金曜日のイエスが息を引きとったとされる午後3時頃は、厳粛な祈りの時間と考えるべきである。

ともあれ、イースター(復活祭)とは、キリスト教最大のイベントであることには間違いない。クリスマス・プレゼントとか、イースター料理とかで、商業優先に踊らされる日ではなく、十字架と復活という聖なる最大の奇蹟を祝う、厳粛にして、敬虔な日である。

始めて教会を訪れたいと思う方は、イースターとか、クリスマスの日が訪れるチャンスではないかと思う。

集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
青年科・成人科		
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分
英語教室 (英文法)	火曜日	午後 7時30分～9時
(英会話)	金曜日	午後 7時 ～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3426-0071

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。